

平成29年度事業報告書

公益社団法人 日本左官会議

[1] 概況

左官を取り巻く現状を踏まえるため、公益目的事業（1）のうち「左官中心的建築物の建設と宿泊体験施設の運営」を廃止するとともに事業構成の組み替えを行った。

平成29年2月10日付で変更認定申請を行い、同年7月4日付で公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（平成18年法律第49号）第11条第1項の規定に基づき、公益社団法人として認定された。

新たな事業構成は以下のとおりである。

- 1) 左官を広く知ってもらうための広報・啓蒙
- 2) 左官職人や研究者を対象とした研修および研究発表会の実施
- 3) 建築関連法案、政策、課題の研究と提言、提案
- 4) 伝統的建築物の修復、保全および伝統的な左官技術を使った建築物の提案
並びにそれらのための技術、材料の研究開発
- 5) 土と左官に関する国際交流

日本の左官技術、職人文化はもちろん、左官という職業自体が一般に知られなくなっている現在、もっとも重視すべきは1の「広報・啓蒙」活動であると考え、今年度は幅広い事業を展開した。まず、「講演会キャラバン」を7月に山形で、10月に京都で開催。11月には武蔵野美術大学の学生を対象にワークショップを行った。また、左官職人と研究者が中心となった「土と左官の研究会」を新たに立ち上げる一方、デザインコンサルティング会社の要望に応じて左官に関するミニレクチャーを行った。また、本格的な土蔵修復の工程を追った、一般の方にも見ていただけるような映像「齋藤氏庭園土蔵修復の軌跡」を作成した。

会員数に関しては、準会員と賛助会員が増えて、前年度より10名・団体が増加している。建築家、研究者、建材メーカー、学生、一般の方に左官の文化や技術を知っていただく事業を行うことで、今後さらに展開する道筋も開けてきた。

[2] 事業期間

平成29年 3月 1日～平成30年 2月28日

[3] 事業の内容

1) 左官を広く知ってもらうための広報・啓蒙

【シンポジウム】

今年度は、平成 28 年に東京と名古屋で開催して好評だった講演会の続編を 2 回行った。まず、7 月 15 日（土）、山形の東北芸術工科大学で、「連続シンポジウム「職人がいる町、塗り壁のある暮らし—その終焉がもたらすもの」」を開催し、約 100 名を集めた。議長の挾土秀平、副議長の小林隆男、総務理事の宇野勇治、地元の左官の大類勝治、今野等、原田正志、加えて岡山の左官、浦上稔晃が登壇。オブザーバーとして東北芸術工科大学教授で建築家の竹内昌義を迎えた。講演会前には土塗りや葦を使った小舞掻き（下地づくり）を実演。ベテランから若手へ教えると共に、素人が左官に触れる場となった。各地の土や塗り見本も展示した。シンポジウムは三部構成で 3 時間に及び、会場も巻き込んで熱心な議論が行われた。翌日には、個人邸の土蔵と紅花資料館を見学。この参加レポートをライターの渡辺征治がまとめ、「それぞれの地に土に生きよ」と題してウェブサイトに掲載した。

10 月 15 日（日）にはメルパルク京都において、富士川会と共催で「塗り壁だけがもつ力と豊かさ」を行った。挾土秀平の講演と、やはり左官である京都の山本忠和、名古屋の川口正樹、神奈川の長田幸司、京都大学准教授で建築家の柳沢究が登壇するシンポジウムで構成。250 名の会場いっぱいの参加者があり、たいへん好評を得た。

【学生対象のワークショップと講義】

11 月 24 日（金）、東京都小平市の武蔵野美術大学・空間演出デザイン学科（担当：五十嵐久枝教授）で、1 年生 120 人とゼミ生・4 年生 13 人、インテリアデザインなどを学ぶ学生を対象に、土の造形ワークショップを行った。日本建築に欠かせない技術であったにもかかわらず、学校教育の中で左官を教わる場面はほとんどない。実技は 130 人というたくさんの参加者全員に天然の色土に触れてもらい、左官の技術の一部を体験した。挾土秀平と長田幸司が指導。その後 200 人ほどの講義室で、他学科の学生も参加し、挾土が「自然の土で『現象』を作品にする」というテーマで講義した。ものづくりにおけるオリジナリティの重要性などを、1 時間半にわたって話した。

【一般対象のレクチャー】

6 月 28 日（水）、左官の仕事の基礎知識について、デザインコンサルティング会社パークスの依頼により、同社内でミニレクチャーを行った。参加者はパークス、パナソニックのスタッフなど建築・デザインの仕事に関連する約 10 人。土壁、漆喰壁、洗い出し、研ぎ出し、

三和土、磨きなどの町家の左官仕上げの種類、左官仕事の自在さ、新しい表現などについて、多田君枝と豊永郁代がスライドを交えて説明し、レポートを作成した。

【土蔵修復の映像記録制作】

宮城県石巻市の国の名勝「斎藤氏庭園」内のふたつの土蔵の修復過程を映像で記録（左官は、鈴木工業および小林隆男）。40分弱の作品にまとめあげた。取材・製作は映像作家のト部弥生で、春夏秋冬の風景と自然の営みに呼応する土蔵づくりを絡め、知られざる斎藤氏の業績にも迫るという内容。美しい映像で、一般の人たちにもわかりやすい作品となった。映像は平成30年度に公開する。芸術文化振興基金助成事業。

【江戸東京たてもの園見学会】

5月14日、江戸東京たてもの園で見学会を開催。堀口捨己の処女作「小出邸」、「デ・ラランデ邸」など、左官のみどころのある建物群を中心に見学。建築家、建材メーカー社員、一般の方など、33名が参加した。

【黒漆喰磨きの集い】

見事な黒漆喰の蔵を内部にもつ家が並び立つ秋田県増田町で1月29日（日）に開かれた「黒漆喰磨きの集い CLASSICi vol.4」および8月27日（日）に開かれた「蔵史めぐり」に伴って行われた「黒漆喰磨きの集い CLASSICi vol.5」に後援、協力。副議長の小林隆男が講師となり、1月には見学解説、8月には黒漆喰の実演と体験を行った。1月の様子は、渡辺征治による参加レポート「初見聞、増田の内蔵～磨きの向こうに」と題して、ウェブサイトに掲載した。

【そのほか】

中高生にさまざまな仕事を紹介する人気サイト「13歳のハローワーク」の運営者と協議し、サイトの解説文やイベントなどに対する協力を検討することになった。

2) 左官職人や研究者を対象とした研修および研究発表会の実施

【土と左官と建築の研究会】

左官や自然素材について活動している建築家、研究者と左官を一堂に集めた研究会を新たに発足、12月2日（土）に名古屋工業大学で第1回目の研究会を開いた。

座長は、総務理事で愛知産業大学准教授／建築家の宇野勇治。左官は、川口正樹、松木憲司、松木一真、平石智久。研究者は、山田宮土理（近畿大学）、村本真（京都工芸繊維大学）、宇野みき（名古屋工業大学で「左官職人の技能継承の現状と課題」を研究）。建築家は、久

保久志（東畑建築事務所）、浅井裕雄（裕建築計画）。海外の事情に詳しいビルダーとして鈴木晋作、左官修行中のエミリー・レイノルズ、事務局多田君枝が出席した。後継者不足や材料の入手しづらさなどの問題、小学生へ「木育」（地元の木材を校舎に使っていることを教える）ならぬ「土育」を行う、全国左官建築マップ作成などのアイデア、海外の方からの関心の高さなどについて意見交流が行われ、合わせて鈴木がフランスの土の研究者たちに倣った教育キットを使ってデモンストレーションを行った。今後も継続し、輪を広げると同時に、小学校や幼稚園での土のワークショップ開催、土の建築研究者のネットワークづくりなど、具現化に向けて討議を重ねていく。

【砂鉄壁ワークショップ】

9月24日（土）、原田左研との共催で砂鉄壁のワークショップを行い、全国から13人の左官の参加者を集めた。指導は原田進。会場は、飲食店として使われていた福岡県飯塚市の民家「聴福庵」で、漆喰塗りだった床の間を砂鉄壁に塗り直した。砂鉄壁とは、小さな黒い粒が渋くかすかに光を放つ粋な壁である。さまざまな材料の配合を研究し、各種サンプルを制作。その後、床の間を仕上げた。

3) 建築関連法案、政策、課題の研究と提言、提案

平成24年当時、2020年（平成32年）に義務化される改正省エネ法によって、「土壁真壁構造」がつくれなくなってしまうのでは、という危惧があった。しかし今年度になって、伝統構法の住宅などについては「気候風土適応住宅」に認定されれば、外皮性能基準の適用除外となり、その「気候風土適応住宅」の認定基準はこれから各都道府県で定められることになったということがわかった。ひとまずは「土壁真壁構法」が法律的につくれなくなる、ということとはなくなった。

4) 伝統的建築物の修復、保全および伝統的な左官技術を使った建築物の提案 並びにそれらのための技術、材料の研究開発

岩手県花泉の唐獅子土蔵の修復事業については、C家土蔵の崩れていた腰壁の煉瓦部分全体の修復をほぼ完了し、強度を確保している。引き続き、部材の復原などの作業が控えている。今年度は、参加者のスケジュール調整が難しく、進められなかったが、来年度は調整して進めていきたい。

5) 土と左官に関する国際交流

【北京建築大学との交流】

9月16日（土）～11月15日（水）、中国の北京建築大学で「土生土長展」が開催された。日本左官会議の会員である左官から提供された塗りサンプルやかまどなどの展示協力を行った。また、事務局の多田君枝とビルダーの鈴木晋作は展覧会を視察し、初日に行われたシンポジウムに登壇。主催者である北京建築大学の建築家、研究者の穆鈞氏と、土の建築・左官を通して中国と日本の研究者、職人、メディア関係者が交流する意義を確認した。この件についてメールニュースで会員に発信した。

〔4〕会員の状況

名誉会員 2名 顧問会員 8名 正会員21名 準会員30名 支援会員 54名
賛助会員 9社 計124名・団体（平成30年2月28日現在）

〔5〕役員などに関する事項

議長	挾土秀平	職人社秀平組
副議長	小林隆男	江州左官土舟
副議長	原田進	原田左研
総務理事	宇野勇治	宇野総合計画事務所
事務局長	多田君枝	アイシオール
理事	川口正樹	川口左官
理事	小沼充	小沼工業
理事	今野等	今野左官店
理事	豊永郁代	アイシオール
理事	西川和也	工房カズ
理事	松木憲司	蒼築舎
理事	山本忠和	山本工業所
監事	吉村浩志	

すべて非常勤

〔6〕理事会の開催状況

当該事業期間中、下記の通り、理事会を開催した。

4月28日、主たる事務所において、理事会を理事8名と監事の出席により開催。平成28年度事業報告書、第5期決算報告書を承認。5月13日の総会の開催を決議。議長、副議長、総務理事、事務局長は、自らが所管している職務の執行状況について、順次報告を行った。

5月13日、主たる事務所において、理事会を理事8名と監事の出席により開催。「会員に関する規定」及び「寄付金等取扱規定」を承認、可決した。

12月22日、主たる事務所において、理事会を理事9名と監事の出席により開催。賛助会員4社の入会を承認した。議長、副議長、総務理事、事務局長は、自らが所管している職務の執行状況について、順次報告を行った。

2月26日、主たる事務所において、理事会を理事8名と監事の出席により開催。平成30年度事業計画及び予算を承認した。

[7] 附属明細書について

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないため、附属明細書を作成しない。

以上